

1. 第2回協議会における協議概要

山口市のまちづくりの状況

- 21地域における社会増減について、その理由がわかれば対応しやすいのではないか。
- 次の総合計画では、経済圏、医療圏、教育圏そういうものを考慮して策定する必要がある。

政策別の振り返りと検討の方向性（政策1「健康福祉分野」、政策2「教育・文化分野」）

- 「日本一本を読むまちづくり」について、図書館業務以外での読書環境の充実について。
- 待機児童解消に向けて、整備した保育園は児童数が減少した場合どうするのか。
また、保育士不足の中、保育の量だけでなく、保育の質も必要ではないか。
- 地域交流センターと保健センターの連携による検診率のアップや交流の場づくりについて。
- 福祉施設、介護施設の設置も考慮し、障がい者や高齢者を支援していく新しい地域包括ケアシステムの構築が必要ではないか。
- 親亡き後の障がい者のことを念頭において欲しい。
- 山口市のコミュニティスクールの運営について。
- 大学生も含めた中也記念館の入館料の無料化検討について。
また、文化イベント等で、観客席がガラ空きにならないようきめ細かな配慮について。
- 総合計画を策定される中で、防府市、周南市の医師会まで医療体制の充実をされるのか。
- 県の文化施設と連携して企画展を開催してはどうか。
あわせて、県施設のイベント情報なども含め、市として広く市民に発信して欲しい。
また、教育分野における充実として、例えば、県立美術館の小中学生を対象にした講座を活用するなど、県施設との連携を図られてはいかがか。
- 県立大学や山大でも、公開講座を実施している。市にある高等教育機関として、様々な学習機会を提供しているので、山口市でまとめて情報発信して欲しい。
- ペットの医療や、100名近い留学生へのケアも重要と考えており、ぜひ、「ダイバシティやまぐち」といったキャッチフレーズのもと、施策の中に取り入れていただくと良い。

「新たな挑戦」の重点的な検討 ①地域を活かすスポーツ起点のまちづくり

②健康都市やまぐちの新たな展開

- 以前は、実業団として一つの企業がチームを所有していた。
それができないときには、一人の選手を一つの企業が応援してバックアップするといったスキームもあるらしい。こうしたことが、山口市においてもできないだろうか。

2. 第2回協議会以降、意見書により頂いた御意見

(施策1-2 子どもの健やかな育ちを支えあうまち) について

- 前回の会議では冒頭、地域別の人口移動と今後の動向について確認しました。

そして、この施策1-2では、保育園等を宮野地域に3ヶ所整備中との報告がされました。

ただ、宮野は、県内・県外ともに転出超の地域。

今後は、若い世帯の転入超が多い地域において、保育園の整備を進めるべきと思います。

住まいと保育園との距離があれば、あるほど保護者の負担は大きく、整備の効果も低くなると考えます。

審議会等会議録（概要版）

審議会等の名称	第2回山口市総合計画策定協議会
開催日時	平成28年8月19日（金曜日）14:00～16:00
開催場所	防長苑 1階白鳳の間
公開・部分公開の区分	公開
出席者	田中和広委員 ほか21名
欠席者	金子大委員、鳩心治委員
事務局	山口市総合政策部企画経営課
次第	<ol style="list-style-type: none"> 1 開会 2 会長挨拶 3 議事（別欄参照） 4 意見交換 5 今後の日程 6 閉会
議事	<ol style="list-style-type: none"> 1 「いっしょに創る未来懇話会」キックオフの報告 2 山口市のまちづくりの状況 3 施策別の評価と将来目標 <ul style="list-style-type: none"> ・政策1「健康福祉分野」、政策2「教育・文化分野」 4 「新たな挑戦」の重点的な検討 <ul style="list-style-type: none"> ・地域を活かすスポーツ起点のまちづくり ・健康都市やまぐちの新たな展開 <p>【会長】 それでは会のほうを進めさせていただきます。今回を含め、3回の協議会を予定しております。それぞれ政策・分野別に現在の総合計画の振り返りと次期総合計画の方向性を検討することとしています。現在の進行中の総合計画につきまして、どういう課題がある、どういう問題があるかというのを洗いざらい出して皆で情報共有、意識を共有した上で、今後の次の10年に向けてどういう計画を、どういうふうな考え方で立てていけばいいかということ、ざっくばらんにそれぞれの皆様方のご専門の立場から、フリーにご意見をいただければと考えております。ある意味では、この3回の協議会というのは、ブレインストーミングと言うんですか、皆で言いたいことを言いあおうと。色々問題点をお互いに出し合って意識を共有しようと、そこから、次の10年に向けてどういうことを考えていけばいいかということと一緒に考えていけるといいのかなと思っております。それでは本日の議事に入らせていただきます。まず最初に「いっしょに創る未来懇話会」キックオフの報告につきまして、事務局のほうから説明をお願いします。</p> <p>【事務局】 前回の振り返りと議事（1）「いっしょに創る未来懇話会」キックオフの報告について説明</p>

【会長】

「いっしょに創る未来懇話会」キックオフの報告をいただきました。いずれ、さまざまなご意見等は今後、随時取りまとめて報告はいただけるということですので、それを見ながらまた次に色んな議論を深めていければと思います。この件に関しまして、何かご質問等ありますでしょうか。

よろしいでしょうか。また意見がまとまりましたら、それを見ていただきながら、ご意見がいただければと思います。

それでは引き続きまして、山口市のまちづくりの状況について、事務局よりお願いします。

【事務局】

議事（２）山口市のまちづくりの状況について、資料１に基づき説明

【会長】

非常に丁寧な資料をつけていただきまして、山口市内のさまざまな地区ごとの人口移動の詳細版データを平成２２年から平成２７年９月３０日までという期間、約５年間の状況が描かれています。せっかく、こういうのを作っていただいたので、ちょっと私の図面も簡単な紹介をさせていただきますと、私自身は前もこういう資料を見せてもらって、どうも地域ごとに移動があったり、県内に出たり、市内に移動したり、県外に出たり、色んな特徴が見られるので、整理をしてみても、人の動きというのが、多分そこに人が定住する、しないに関係する可能性があるというふうに、A３の１枚を見ていただくと、左側に地区名が書いてあって、色はさっき説明があったとおりで、移動が大きいというのが、出たり入ったりする人を足しています。人が大きく動くところ、そうでないところ、そういうところでまず分けて、それぞれ結果として増えているか、減っているかということですが、大きく動きながら大きく減っている、大きく動きながら大きく増えている、ほとんど移動はないけど着実に減っているところ、移動はあんまりないけど着実に増えているところ、そういう見方をすると、そこで何が起きているかというのが何となく見えてくるかなと思ってこういうのを作ってみました。左から、市内移動者数で転出転入、それを足したものが移動者数ですね。増減が何名と書いてありますが、県内移動の転出転入があって、結果としてどうなるか。例えば、大殿であれば、市内の移動者が１４人増える。県内の人は１７３名増えています。その代わり、県外に３５人逃げています。人口が７，５７１あるということで、増減数はプラスの１５２ですが、増減数を人口で割ったときに何%くらいだろうかというのは２%になります。１５２人増えた、で人口比は、どのくらい増えているかということを見たものが２%です。次に移動数ですが、６，０７６人が移動している。移動数が人口に対してどんなものかということで、約８０%が出たり入ったりしている、ということを見ています。これは転出も転入も含めていまずので、８０%の人みんなが出るわけではなくて、そういう全人口７，５７１人に対して６，０７６人が出たり入ったりしているという移動程度を見ているわけ

です。色んな色で分けていますが、大殿であれば赤の173というのが、1番増えているのはここですが、県内移動が1番大きいですよと。それからオレンジ色で塗ったところがどこが1番減っているかというのを示したものです。例えば、大内は、県内移動が一番増えています。それから県外移動が一番減っている。だから、大内は防府市から中に入ってきていて、プラスになっていると。県外移動は大きいということで、トータルとして95人増えているということですね。さっき言われましたように、それぞれの地区ごとに特徴があるよということが見えてまいりました。これ、灰色で塗った、仁保、宮野、平川というのは非常に大きく移動しているのですが、いわゆるマイナスの割合が人口比に対して大きいというところをみています。この場合、宮野と平川というのは、自衛隊と山口大学が宇部に移動しているので、多分その辺が反映されているのかなと思います。そして仁保が大きくマイナスに転じています。特徴的なのは、佐山、阿知須、鑄銭司というのがあまり移動はないのですが、着実に増えている。特に阿知須は宇部から大きいのですが、310名プラスということで増減数が人口比で4.4%ということで、非常に大きくなっています。佐山もそうだと思います。そういうのを見ながら、人の移動を思い浮かべながら、総合計画を作っていけるといいのかなというふうに思っています。次のページは周辺地域に移動数は少ないけど着実に減っている、このままだと着実に減っていくよという可能性の高いもの。それから佐山、阿知須、鑄銭司というのは、ちょうど市の境なのですが、そういうところでは移動は少ないのですが確実に増えているというものですね。あと、町の中は大きく移動しているけれど、今のところ増えているという地域になるかと思えます。これも、色んな将来を考える上の参考になればと思って作ってみました。

それでは先ほど説明いただきましたように、山口のまちづくりの状況について、質問や、資料に関する質問でも結構ですので、出していただければと思います。

【A 委員】

人口の増減について理由というのは何か掴むような資料があるのですか。先ほど、平川と宮野のことをおっしゃいましたが、その他それが分かれば、どういう対応をすればいいかというのが掴みやすくなるではないかと。

【会長】

そうですね。分かりやすいところの例を挙げますと、大内を見ていただきますと、県内移動が312人で多くなっています。これは防府です。おそらくマツダだと思います。いわゆる市の境、小鯖もそうなのですが、小鯖はどうも街の中、山口市内に移動しているようで、大内は間違いなく県内移動で防府にたくさん流れている。そういうのが、一つ一つ見ると見えてまいります。街の中は意外と下関にどうもやりとりがあるみたいで、多分本社が山口にあるか下関にあるか分からないですが、多分大きな都市の間でも人口移動が見えます。特に官公庁はそういう傾向があるように見えます。一つ一つ見るとそれぞれの特徴を表しているのです

が、徳地、阿東とか周辺部は、移動量は少ないですが、間違いなく減っているという状況が見えているかと思います。

【事務局】

少し事務局のほうから追加で説明させていただきますと、ほぼ全地域に共通している事情として、20代は、ほぼ県内に対しても県外に対しても転出超過というのが統計上追えるところで、それ以外の30歳から39歳の区分、そして恐らくそのお子さんだろうと思われる0歳から19歳、こちらは転入超過、入ってくるほうが多いという状況があります。これはほぼ21地域を押並べて共通する傾向ですので、恐らく20代の若者の働く場が比較的少なくて、ファミリー層、家を建てたり、終の棲家を選ぶ場の際に山口市を選んで頂いているのではないかと。今の部分は推測です。そうした傾向がこの統計の20代が転出超過、30代とそのお子さんが転入超過という状況になっているのではないかという推測をしています。

【会長】

他にございますか。だからどうだと言える問題ではないのですが、何かよく表しているなと思いました。それぞれの満足度というのが前回出ていたと思うのですが、それぞれの地区ごとの満足度を見て、CCRCでしたか、非常によく合っています、満足度が高い地域は確実に増えています。満足度の低いところは確実に減っている。だから、何か関係があるのだろうとは思いますが。その辺が分析できるとじゃあどうすればいいかということに繋がるのかなと思います。よろしいでしょうか。また見ていただきながら、考える点がありましたら次回にでも言っていただければと思います。意外とこういうものって見る機会がないので。

【A 委員】

会長さんの提出資料で、企業の関係とか、大学の関係とか、そういうこともあるのかもしれませんが、だいたい山口市は今の山口市になって広域合併したときに、旧山口市と町が合併したわけですが、経済圏が全然違う町が山口市に合併しているわけですね。例えば、徳地とか、阿知須とか、そういうことが今もって経済圏との繋がりが多く、例えば徳地なら防府、阿東町は元々山口市との繋がりが非常に強いものですから、阿東から旧山口市に出てくるという如実に表していると思います。そういうことを考えた経済圏、医療圏、教育圏、そういうものを考えて、これから総合計画をたてていかなければ、やはり広域の市ですから、その辺が1番大事なんじゃないかと思います。

【会長】

非常に重要な視点ではないかと思われまます。市の境だとか、県の境っていうのは行政が勝手に決めたものであって、人や金や物の動きっていうのは、当然それを越えて動くわけですね。そこまである程度頭の中に入れながら市の総合計画を作っていかなきゃいけないのではないかと思います。先ほど言われたように、阿

東から一番出ている先は、宮野ですね。だから街のほうに出て来られているというのがよく分かるだろうと思います。

よろしいですかね。こういうことを少し頭に置きながら総合計画の立案なり、計画の審議に入っていくと思います。

それでは、(2) 施策別の振り返りと検討の方向性に移りたいと思います。これまで、現在進行中の総合計画の中で、いまどうなっているかという振り返りといいますか、これから議論をすすめるための背景を、まずお互いに共通認識を持つということが大事かと思います。その中で、今の段階でこういう問題点があるよね、というご指摘を事務局のほうから若干指摘いただいて、これをたたき台にしながら色々議論を出していただいて、ブレインストーミングですので、俺はこう思う、私はこう思うということを書いていただければ、次の最終的には答申にも繋がってくるのではないかなと思います。

本日は、政策1「健康福祉分野」と政策2「教育・文化分野」について、ご紹介いただきます。よろしくお願いいたします。

【事務局】

議事(3) 施策別の評価と将来目標の政策1「健康福祉分野」と政策2「教育・文化分野」について説明

【会長】

事務局より政策1と、政策2についてそれぞれ具体的な課題ごとに現状の問題点、現状の達成された、どこまで達成したのか、そういうものから見えてくる将来的な課題、そういったものに関する説明がありました。ちょっと盛り沢山でしたが、政策1では健康づくり、子育て、高齢者の生きがいや介護、障がい者に対するサービス事業、地域福祉、社会福祉等に関する6つの施策が紹介されました。

政策2では、人権や教育、家庭・地域・学校の連携、それから文化、芸術、生涯学習、あとはスポーツに関する6つの施策が紹介にありました。これらに関しての委員の皆様方からのご質問やご意見などをいただければと思います。A3の資料の中身についてでも結構ですので、健康や教育、文化の分野に関して皆さんが活動を実際やった中で、こういう課題があるのではないかとというのがあれば、それを出していただいてもいいので、共有をしたいと思います。ここでは、物事を決める場ではありませんので、自由に思っていることを皆さんで意識の共有を諮ればと思います。

だいたい30分弱くらいですかね、フリーのディスカッションをしたいと思います。

【委員B】

目標となったというか、これまで推進してこる中に、日本一本を読むまち、これは非常によいことだなと思っています。その日本一本を読むまちを実現するために、何をやるのかということで、ここに出てきた学校図書館と市立図書館、まあ山口市の場合、県立図書館もございまして、図書館だけでなく、書架文化を維持

していくために本を購入するというのは非常に重要だろうと思います。何か、いまご説明いただいたこと以外に、学校図書館、大学図書館もありますので、この日本一本を読むまちを実現するために取り組まれていることがあれば教えてください。

先ほど言いましたように、図書館だけでないものに対して、本を読むのは重要だと思いますので、市民の皆様方、特に子どもたちも親しむし、しっかり本を読むということを実現するために、何が考えられるのか、事務局のほうで、もし考えていることがあれば実現していることがあれば、教えてください。

【事務局】

ここに書かれていない部分として、資料の別のページでは触れられていたのですが、やはり大人になるとなかなか本を読む習慣を改めて植えつけるというのも大変だということもあり、子どものうちからしっかりと読書習慣を植えつけていこうと、10ページの施策2-2楽しく学び、生きる力をはぐくむ子どもという、子ども達を対象とした政策のところ「学校図書館図書標準の達成状況」ということで、学校のクラス数、学級数において、これだけ本を揃えておいてくださいね、という大まかな基準があるんですが、その達成に向けて、新市誕生以降、本を増やしていくとか、学校の図書館にスタッフを配置してしまして、その学校図書スタッフさんが色んなゲーム感覚で本を読むような取組みを企画されたりですとか、そういった取組みによって子ども達の読書習慣を展開されているというものがあります。

そして、現在作成中なのですが、読書ノートというものを作成してしまして、各先生方がバラバラに何の本を読んだかという読書メモみたいなものをいま作っているのですが、これを全市共通の様式にして本を読んで、その感想をきちんと書くという、文章を書く力まで繋げるような取組みという中で本を読む面白さを広げていこうというような展開をしています。

そして、子ども達以外の、今度はエリアという概念で言いますと、本を借りにくい過疎地域なり、農山村エリアのほうに関して、どういった図書環境を用意するのかにおきまして、今年に入ってからですが、阿東や徳地は旧村単位に集落が分かれています、その旧村単位に地域交流センターの分館というものがあり、阿東地域からの試みなのですが、本の予約をされたらその分館まで本をお届けするサービスを展開して、エリアとして図書環境を充実させるような取組みも始めています。

【教育委員会】

追加で説明させていただきます。いま阿東、徳地の説明がありましたが、他に市内全域として移動図書館ということで、「ぶっくん」という車があり、市内39ヶ所のステーションに月に2回程度ですが、日にちを決めて伺って、地域の方に本に親しんでいただく機会を設けています。

また、学校もそうなのですが、乳児生後6か月の赤ちゃんに本を読み聞かす機会

をとということで、お母さんと一緒にブックスタートという形で本の読み方や、楽しさを伝えるイベントをして、尚且つ、絵本をお渡しするという機会を設けています。

また、利用者数の拡大という面において、なかなか効果を計ることが難しいところもあるのですが、例えば明治維新であるとか、歴史関係の講座を図書館も一緒になって、うちで言えば文化財保護課と一緒にイベントを実施して、その後に本の紹介をすとか、健康部門とも一緒にイベントをして、それも本の紹介を一緒にすとか、そういった利用者層の拡大も順次努力しているところです。

【事務局】

2点目の質問で、図書館業務以外での読書環境の充実はどんな手があるだろうかという辺りは、まさに次の10年の宿題だなと思っていて、図書館だけであれば、図書館に新しい本をどんどん予算かけて買ってあげれば、貸出しが増えるという傾向はあるんですが、やはり限りある財源の中で図書館業務以外の部分でいかに市民の皆さんに本を読んでいただけるのか、関係者との連携をどう進めていくのかというのが課題だろうなと思っていて、この辺りがちょっと策定の中を進めて、皆さんのお知恵をいただいたりとか、色々ご意見を聞きに回ったりしないといけないなと思っています。

【会長】

よろしいですか。はい。

是非、地域に目を向けていただいて、知的好奇心ってみんな共通に持っているものなので、その機会を少しでも与えてあげられたらいいなと思います。

他にございませんか。

【委員 C】

私たちの学芸大学は、保育者養成と教員養成とやっております。保育者養成でいま話にありましたように、一番社会問題になっている待機児童の問題、保育士不足という、私たちも随分養成側として色々考えてきているんです。現場で現役の先生に会うこともありまして、色々な話をお聞きするのですが、いま人口のことで宮野地区がだんだん人口減少しているとのことで、それを受けて私この前、宮野のほうを回ってきたときに、宮野に保育所が立て続けに建っていると。いま2ヶ所建っている。また来年建つと。公立のほうは、どちらかという今は民間のほうで保育サービスいいのでそちらのほうが増えて、公立のほうで危なくて少し人数が減ってきているという話がありました。現場の先生は、待機児童がこれだけあると私もびっくりしたのですが、こうやって箱物を増やして行って、だけど将来絶対に人口は減っていくわけですから、その時にどうやって考えていくのかというのを悩まれていたんです。私も今日聞いてみたいなというところです。それと、私の学生が保育士に魅力を持っていて、やりたいと。高校のときからそう思っていて入ってきているんです。だけどいま、保育士不足ということで「はい、来なさい」「はい合格です」ということで民間に行くと、顔を見た瞬間、「あ

なた合格」と。これでは4年制に行って、短大と何の違いがあるのだろうか。そんなことを学生は言っています。民間で私立の保育園、公立の保育園ありますが、私どもの4大の学生は公立の保育園の先生になりたいとたまらないんです。だけど公立がだんだん民営化されて、統廃合されてだんだんなくなっていっていると。希望がだんだんなくなっていると。それで民間に行けば、はい合格と。私たちが短大より2年間勉強してきた価値が認めてもらえるのか。幼稚園の場合、幼稚園1種、2種があるけど、これは国家資格ですからどうこういう問題ではないのですが、何か市に保育士のランクがあるような。北九州とか、周南市なんかは、嘱託ということで、臨時と正職員の間のランク分けみたいなのがあって、希望持って働けるとい、そういう保育士不足と合いました政策ということで、そういうような保育職の魅力ということについての方向性が見えたら、大学生や養成校にもアピールできるので、ぜひお願いしたいなというのがあります。養成校のほうは、高校生に向けて、オープンキャンパスなんかでアピールしています。大学のアピールというよりも、保育職のアピールですので、そういうことで貢献しているのですが、本当は県がやるべきことかもしれませんが、市も保育士不足ということで、保育職っていうのはこんなに素晴らしいのだということ、今後考えていかなければ、色んな面でただ足りないから、作ればいいと。来た人がどうか、昔、資格ある人が教育すれば、すぐなれるのだみたいな、そんな安易なことをすると、今度は量の拡充をすごく言っていますが、国のほうは子ども子育て支援、量と質ということを言われています。質の問題がいま全然触れられていないので、養成校としては、質を私は養成していきたいなと思っていますので、その辺のお考えをお聞きしたいと思います。

【事務局】

最初に企画経営課から大枠の説明をさせていただきます。量的拡充を追い求めてきた中で、子どもが減ってきたときに、将来的な不安が出てくるのではないかとことはあります。いま山口市の公立保育園に関して言いますと、広い市内を6ブロックに分けて、それぞれ拠点となる、最後まで残すべき保育園というのを最低限定めて、それ以外に関しては将来的には民間化していくという方針を定めています。ただ、いま量として待機児童が相当いらっしゃいますので、そうした民間化や公立保育園を縮小していくという局面に、今はないという状況が続いているという現状としてあります。そうした中で、将来的にお子さんや保育園の入所者数、児童数が減ってきた局面に入ってきたときには、そうした計画に基づいて、公立保育園の枠を減らしていくのかどうしていくのかという形で調整するのではないかと考えています。

一方で現在も、幼稚園に関しては定員割れもあるという状況もありますので、認定こども園という形で保育部分をいかにサービス提供していただけるかというようなことも、関係者の皆さんに調整させていただき、お願いしているようですので、こうした動きと併せて、トータルで将来的な需要なんかも見込んでいきたい

と考えているところです。

そして、もう一つ、いわゆる質の問題ということですが、こうした部分に関しては、一億総活躍の中で2%保育士の給与水準を引き上げるといような方向性が打ち出されましたので、ようやくそうした動きが労働政策としてようやく始まりはじめました。実はこうした国の動きはなかなか出てこなかったものですから、山口市は年間わずか5万円なのですが、私立の保育士に給与を支援させてもらう形で人材確保と質の向上も研修とセットで、こうした支援という取組みをしてきたところです。ですから、それでもまだまだ質というところを議論するうえで一番重要な、保育士の給与水準が問題としては労働政策としてはあろうかと思えますので、こうした辺りも国に、しっかりお願いしていく部分と、一つの基礎自治体である市として、どこまでどうしたことができるのかという辺りも次の総合計画ではしっかり議論していかななくてはいけないと大枠としては考えています。

【健康福祉部】

少し付け加えをしますと、子ども子育て支援事業計画という総合計画の部門計画において、保育の質と量の見込みというものを計画立てて取り組んでいます。現在65人の待機児童が出ておりますが、計画の中では平成30年度にはゼロを目指してということで、保育園の整備等を進めています。民営化の基本方針もありますので、その辺も見ながら検証していかないといけないと思っていますし、総合計画との関係ですと、健康福祉部は部門計画をいくつも持っているのですが、この子ども子育て支援事業計画については、計画年度が少し総合計画とずれております。ただ、平成29年度、来年度は策定をして3年経過するというので、中間年に当たりますので、こういった数字については検証し、計画の見直しまで踏み込むかどうかは分かりませんが、数字についてはしっかり検証してまた第2次総合計画の策定の中で、お示しをしたり、お諮りをしたりする必要があるのかなと、部のほうでは考えています。

それから保育士不足については、先ほど説明がありました通り、どうしても私たちは保育士の処遇というところを注目しているのですが、先生の指摘がありましたように、保育の質ということで、養成校との連携等もちろん必要だと思いますので、また総合計画の策定の中でも、いろいろと協議させていただければと思います。

【C委員】

ありがとうございました。今、山口市の5万円っていうのを知って、光市が定住して移り住んだら2万円とかですね、保育士だと10万円と、お金のことで、あれなんですけど、私も聞いたものですから、市のほうも宜しくお願ひしたいと思えます。ありがとうございました。

【会長】

【D委員】

すみません、大学教員ばかりペラペラ喋って恐縮ですが、大小含めて5点ほどあ

ります。

まず、3ページの「一人ひとりが健康づくりを行うまち」について、これは本当に長寿社会を支えていく基本なので、非常に重要だと認識しています。中でも、疾病予防等に関しての検診率なのですが、山口県全体の健康診断等の検診率が大変全国的にも低いです。山口市でも是非、検診率アップに積極的に強化・充実も含めて書いてありますが、お願いしたいと思います。いま手元に資料がないのですが、特に県内で地域別で一番寿命が長いのは、確か平生町だったと思いますが、山口市は男性がかなり低かったと思います。何が原因か単純な理由ではないかもしれませんが、働く男性の検診率を含めた健康管理力のアップというのは、かなり重要ではないかと思います。

それから、これは全般に関わることなのですが、現在の老人クラブの参加率の低下を考えましても、団塊の世代の皆さん以降は、動員型といいますか、集まりなさいと強制されるのが大変苦手というか、難しいと思います。だんだん世代的にも都市型にもなるかと思うのですが、強制動員型ではなくて、利用施設型といいますか、どこかの拠点に気軽に行って任意の人が集まるというパターンにどンドンなっていくかと思います。健康診断等も、地域交流センターと保健センターとの連携のような、ちょっと地域拠点を自由に考えて、そこを拠点化、利用施設化したほうが今後10年というのは効果的ではないかと感じている。

それから、5ページの「高齢者が生きがいを持って暮らすまち」、これも全国的に見て、介護予防も含めて地域包括ケアのシステムはどう作るかというのが、市町の保健福祉の要になってきます。形だけの地域包括システムと言っても選ぶべきメニュー、事業者が少なかったら連携できませんし、県内や市町の流入人口のグループホームがどこにできるかとか、老人マンションがどこにできるかとか、施設がどこにできるかで、30～40人はガラッと変わるので、移動の状況も恐らく福祉施設、介護施設の設置状況も多少影響しているのではないかと思います。それを含めて地域包括ケアシステムをぜひここにも新しい、障がい者のことを含めた、新しい地域包括新体制の構築が必要ではないかと、強化・充実が書いてありますが、そこは私も同感です。

3番目に、地域包括も関連しますが、全国的にも、山口県もそうですし、山口市もそうなのですが、どういう訳か、人口が減りつつあっても、障がい者の方達は増えているのですね。障がい者の方達の高齢化も免れない。私の多少NPOに関わらせていただいています、大きな課題は、親亡きあとの問題になってきます。施策1-4「障がい者が安心して自立した生活ができるまち」で、就労支援は拝見すると成果が出ているようですが、その次は親亡きあとです。ぜひそれを念頭に置いていただければと思います。

4番目に、先ほど学校図書の話が出ましたが、11ページの施策2-3「家庭、地域、学校の連携で、すくすくと育つ子ども」で、近年地域の力、教育力を学校運営に活かすということで、コミュニティースクールが推進されています。これ

については、PTAや子ども会や従来の組織とコミュニティースクールの運営の仕方が地域によってバラバラになっているようですが、山口市ではどういう形で、形だけの協議会を作るだけなのか、どういうふうに運営するものなのか。

それから、12ページ施策2-4「文化、芸術、歴史にふれ、心豊かに生きるひと」のところで、恐らくCCRCも含めて、若い人たちが地域に暮らす魅力は何かと考えると、やはりスポーツであるとか、文化、たまには週末に行くところがあるという、魅力とも関わってくるので、12ページの事業とそれからスポーツ等、実施プログラムはかなり重要になってくるかと思います。これはちょっと瑣末なのですが、市の施設である中也記念館に19歳未満の入館料無料化と書いてあるのですが、できましたら、大学生までも入れていただけませんか。例えば、九州大学は国立博物館を無料で入るよう国も配慮していますが、県の施設についても働きかけようと思っていますが、若い人がアルバイトに追われるのではなく、せっかく来た山口の歴史や文化に触れるチャンスというのを促進するためにも、無料化を。できれば、これは他所から市民会館や芸術センターにイベントに来られた方からの声なのですが、せっかく素晴らしい芸能ショーを呼んでも、ガラ空きのプログラムが結構あります。そういった、ガラ空きのときは最後のところは、半額セールにするとか、若い子育て世代に優遇するとか、ちょっときめ細かいことで満員にさせていただくと上演する方も張りが出てくると仰っていましたので、細かい配慮があると楽しいなと思います。

【会長】

多くのコメントをいただきましたので、是非。一つだけ、コミュニティースクールは、山口市ではどのような運営をされているかと質問がありましたので時間もあり完結にお答えをお願いします。

【教育委員会】

コミュニティースクールですが、形としては全学校に導入しておりまして、全ての学校が地域の力を入れるようなコミュニティースクールになっています。実際の運営なのですが、やはり学校ごと・地域ごとに特色を持った運営ということで、なかなか一様にはなっていませんが、学校と地域の運営がうまくいくように教育委員会も指導主事派遣など、努力しております。一方で、学校教育の場のコミュニティースクールと、社会教育の側の地域協育ネットという、地域が子どもを見守るというシステムもございまして、そちらのほうでは、各小学校区に一人ずつコーディネーターを配置するように努力しております。そのコミュニティースクール側ではなく、地域側からの仕組みをコーディネーターと学校が連絡を取り合って、地域力を学校に、学校も地域に求める力を、ということでコミュニティースクールをしっかり運営する仕組みづくりをしています。

【会長】

仕組みの話ではなくて、実績に意味のあることをやっておられるのかという質問かなと思って聞いていたのですが、組織がきちんと出来ている、あとはそれを使

ってコミュニティーと子ども達が十分連携をとっていけばいいというふうに理解しました。

【E 委員】

3 ページの医療体制の充実について、先ほど私、大きな山口市になって、医療圏が違うところがたくさんあるという話をしましたが、ここに書いてあるのは、救急医療体制についても旧山口市の在宅当番医制度とか、山口市の休日・夜間急病診療、あるいは市中心部を中心とした二次救急医療についても、日赤、済生会、小郡第一病院、という整備をされている。

しかし、やはり地域によっては医療圏が違うために例えば徳地は防府・周南、あるいは阿知須であれば宇部のほうに行かれる患者もたくさんいるんじゃないかと考えたときに、私は医療体制の実施というのは非常に大切なことであって、今後これを山口市としては、防府の医師会、周南の医師会まで広げて体制を充実させるのかどうか、ご意見を聞きたいし、ぜひその辺を含めた総合計画をたてるべきではないかと、私の意見です。

【会長】

さっきも言いましたが、市の境というのは単なる境界であって、人は当然それをまたいで便利な方向に動いて行きますので、当然そこでの連携というのは大事だろうと思いますが、簡単にコメントいただけますか。

【事務局】

特に市境、周辺都市境を接している農山漁村エリアを中心に、医師の確保というのは課題になってくると思います。片や医師会という、行政区域とイコールになった組織がある中で、どこまでの調整が可能かということはあると思いますが、しっかりと検討していきたいと思います。

【F 委員】

山口市というのは県内の他の市と違って、県の文化施設が集中してしまっていて、市民にとって市立の施設だろうが、県立の施設であろうが、使い勝手よく使えるのが好ましい、その施設のあることを前提にして、市の施設だけで物事を考えるのではなく、もっと広く県と連携もして、市民の皆さんに、例えば、12 ページにありますように、県立美術館、文書館、博物館に、市のほうから「こんな企画展をやりませんか」という提案をされたり、例えば、市立の施設でこんなイベントが、だけではなくて、市内のこんな施設でこんなイベントがあるよといった、もっと広い目で、市民にとって、県立であれ、市立で、関係ないわけですから。そこを市として、市民に情報を提供するのだという観点にもっと立ってもらいたいなど、見方を変えてほしいと。

それから、10 ページに、教育関係をさらに充実と書いてありまして、地域の人材も使っていきたいとありますが、例えば、県立美術館には、小中学校の児童生徒を対象にした講座もあります。山口市は利用できる絶好の位置にあります。それぞれの施策を講じられる課で、県の施設と連携をとってされてはいかかと思

います。すでに、文化担当課は県立美術館とは仲良くやっていますから、もっとそこをつっこんで、施策の中にまで入り込んで考えてみられたら、もっと楽にできるのではないかと。施策の玉数が多くなるのではないかと思います。

【会長】

コメントをいただきましたので、ぜひ考えていきましょう。例えば公開講座なんかも、県大でも山大でもやっていますが、市ということではなくて、市の中にある高等教育機関として色んな機会を提供していますので、それを市がまとめられて、山口市内ではこういう講座をやっていますよとか、そういうふうで紹介していただければ。防府市は似たようなことをやっておられるのですよね。ぜひ山口市で、市が、ということじゃなくて、市の中で色々あるものを情報として流すということも大事かと思っています。

時間も迫ってきましたが、今後、紙にコメントを書いて提出していただくことも可能ということで。

私から感想ですが、病院、医療が重要だとよく分かるのです。いままCCRCだとか、都会からこちらに帰られたとき、きっとペットを飼われると思います。ペットの医療も大事かと思っています。いまは夜間のペットは多分診療してないと思うのです。山口大学で一次医療をオールナイトでやるようになります。そういうのも、帰ってきたその色んな方々は田舎ですからペットを飼いたいと思います。そういう人のためのケアも大事なかと思っています。

それから、地域とお互いの人権を認め合うときに、大学としては、これから合わせて100名の留学生が来ます。外国人も来ますが、先ほど、地図をお見せしましたが、市街地はものすごい人間が移動しているんです。新住民がたくさん来ています。そういったことも考えながら、そういった人たちのケアもぜひ施策の中に取り入れていただけるといいのかなと。そういう意味でも、「ダイバーシティやまぐち」というようなキャッチフレーズかなあと考えています。色んなところで、この施策の中に出てくるかなと思っています。

すみません、あとでまた出来れば時間をとってもう一回そういうことをしたいと思っています。

それでは、議事4の「新たな挑戦」の重点的な検討ということで、本協議会においては、それぞれの委員の皆様方から次期総合計画を策定するのに、色んな取り組みなどをご提案していただくことになっています。

今回は最初に、政策2「教育・文化分野」に関連して、レノファ山口の河村委員より、スポーツを起点としたまちづくりのご提案をいただき、資料があろうかと思っています。ご提案内容について、本日は代理として出席いただきます中島さんのほうから説明をお願いしたいと思います。

【レノファ山口】

お手元に2つ資料をお配りしております。

まず資料3から簡単に説明させていただきます。1ページなのですが、スポーツ

を起点としたまちづくりということで、これまでスポーツ振興ということと呼ばれてきましたが、これからスポーツによる地域の経済の活性化というのはどこでも言われていることなんです、こういうことをどうやっていただくかということについて、ご活用いただけないかと非常に申し上げづらい話ではあるのですが、常々ご支援、ご声援いただきありがとうございます。ここからは、客観的に喋らせてもらいますので、ご了承ください。

各地でどういうふうにJリーグのチーム、いわゆるプロスポーツのチームが活用されているかという事例を1から11まで記載しています。基本的に社会課題の解決に材料として使っていただいているというようなケースでございます。それから併せて14ページなのですが、「将来的な発展性 スタジアム整備による地域活性」ということで、現在Jリーグというのは約25年前位前、1993年にスタートしてスタジアムを中心として、地域と共に歩んできているという状況にあります。20年の間スタジアムっていうのは全国でも建設をされてきたのですが、地域の活性化にどう活用していくかということが、各地でいまされている事例として2つほど、北九州の事例と大阪の事例を載せています。

このスタジアムの部分について、もう1枚の「日本再興戦略2016」というものでスポーツ庁と経産省からうまれてこういったスタジアムアリーナ改革、今までどちらかというとコストセンター、コストかかりすぎて垂れ流しというような状態から、プロフィットセンターへ転換して、地域経済への活性化財源にしていくというような戦略を出されています。スポーツ自体、色んな方の感覚があると思いますが、どうとらえるか。先ほど、「する・見る・支える」でしたか、そういった観点。もう一つ、プロスポーツなので、私事ですが、2年前にレノファに来るまで、ずっとプロサッカーのチームに居ました。そういった中でどう変化していけるかっていうのを個人的な感覚を含めてお話しすると、スポーツというものの自分の自分の中での感覚っていうのが、少しずつ変化してきていると思います。それと、経済的にどう活用するかということ、例えば、人間を呼んだり、動かしたりする材料的な捉えかたをされているところがあるかと思います。試合っていうのは、私どもは維新公園を主にさせていただいています。それで、21回の平均のお客さまが、約6,000人くらいです、まだ。しかし6,000人の人が来るイベントが21回定期的にできたという捉えかたですね。我々が下のリーグに落ちなければ、それは継続すると。例えば、1万人と仮定しますと、約9割が地元のお客さま、具体的に山口で言いますと、ほとんど山口市の方だけじゃないと思います。そういう他市からの交流人口に対して創出している。そして1割、1万人のうちの1,000人が敵の応援団です。いわゆる目的型観光の1つの例です。サッカーという試合を見るという目的をもって来たことのない山口県に来るとというのが、定期的に起きています。アウェーリズムという言葉があるんですが、これを各地では地元のそういう関係の団体と一緒に活用する。いわゆる下見の観光、ついでの観光、初めて来る山口を下見する、今度、家族と来

てみよう、そんな感じの話ですね。せっかく来たのだから、ついでにどこかに寄って帰ると。そういったところを、ある種のホスピタリティをもってもてなすことで、何かを確保というか、そういうことを地道にされている地域もある。そういう人間を呼んだり動かしたりする材料で、そういったことをやっていくのに、スタジアムというモノをどう使っていくか。山口市にありますと、市内の方が来られます、市外の方が来られます、県外の方が来られます、この方たちを定期的にどう活用するかというのを、いまちょっと出てきているのが、サッカーの試合会場というよりは、サッカーの稼働率は年間20回くらいなので、サッカーも出来るし、コンサートが出来たりとか、そういったのが出ています。そこの拠点をもとに、色んな健康づくりの拠点、例えば鹿島アントラーズってサッカーのチームがあります。4万人のスタジアムも持っています。そこに、スタジアムのコンコース、廊下をぐるぐる回る1万人のウォーキング会員がいらっしやるそうです。そういった使われ方、暗い道を歩くよりも、そういった所を歩いたほうがいいと、そういった方も使用できると。何かの拠点とされている。それから県外の方が来るということで観光の拠点にしたりとか、そういった使い方をされたりしているので、基本的にどちらかという、使われる材料としてどう見ていただけるかな、と思います。スポーツというよりは、人間を集める装置的な使われ方、それを政策の中にどう組み込んでいただけるのか。非常に申し上げづらいのですが。そういった観点で見ただけだと、我々の存在価値というのが、例えば精神的な貢献というのは、子どもさんに夢を与えたり、地域の方に夢を与えたり、そういったことも出来ると思います。ただ、何かしらの経済的な貢献といえますか、活用をできればと思います。

最後に1つ、本当にある事例としては、宇部空港が韓国と定期的に繋がったと言いますか、じゃあレノファも韓国のトップ選手を入れろと、お金はどこが出すかは別として、そういうことによって、韓国の国民に韓国のトップスターとして、山口市というものを知らせて、1回行ってみようかと。今はイチロー選手がシアトルに居たことを知らない、ある年齢以上の日本人はいないと思います。1度行って見て自分たちも見ると、そういった使われ方をするような、おそらく我々はそんな存在なんですね。そんな事例も日本でも出てきています。韓国人を誘客しよう、あるかないか別として。その代表としてレノファを使う、そういったような使われかた、そういう観点でもし見ていただけたらと思います。以上です。

【会長】

スタジアムを中心とした、一つの文化圏、経済圏というか、そこまで総合的に捉えて地域の活性化に使っていかうというご提案です。時間がないので、一つだけ質問があればどうぞ。

【G 委員】

いま集客のためにツールとしてレノファを生かしてという力強いお言葉があったのですが、徳島県では大学と共同して、女子サッカーチームを作るんだそうです。

その時に以前は山口でもありましたが、実業団として1つの会社がチームを持てた。そういうのが出来ないときに、中小零細企業が一人の選手を一つの企業が応援するというスキームでバックアップするのだそうです。そういったのが山口市ではできないでしょうか。それはおそらく地方都市で有効なのではないかというご思想をいただいたので、私は全然この業界素人なので分かりませんが、だとしたら例えば、どこそこ企業は誰々さんのスポンサー、どこ企業組合は誰々さん、年間か、何年か分かりませんが、そうすると地元の企業が、おらがチームとしての繋がりがまた出来るんだそうで、皆で応援する、カープが市民の募金で応援したように、自分たちのチーム、ひとりひとりのメンバーという絆が出来るんだそうで、ヒントとしてつぶやいておきます。

【会長】

非常に面白いあれかなと思います。山口大学もここにバッチでも貼ろうかという話があったが金額を聞いてびっくりしました。無理だなと。言われたように、個人個人に対してサポーターを推してなら、そんなに可能性はあるかなと思います。またあとでもう一件いただきますので、紙に書いて、これに関してのご意見があればぜひいただいて、前向きに進められれば良いかなと思います。

それでは、次の議題に入りたいと思います。政策1の健康福祉分野に関連する、「健康都市やまぐちの新たな展開」ということで説明をお願いします。

【事務局】

資料4「健康都市やまぐちの新たな展開」について説明

【会長】

山口らしい健康都市づくりというのを進めていく必要があるかと思うんですが、じゃあ山口の特徴って何だろうとかかそういうものを考えながら、意外と山口の中にいる人間には気がつかないところが結構ありまして、外から来た人間にしてみたら、車で30分行ったら海水浴も行けるし、30分あればりんご狩りに行けるって、こんな街ないですよ。そういう山口市のこういうコンテンツって自然のリソースを上手に使うことによって、健康都市づくりをすすめていくことが出来るんじゃないかなと。柚木慈生温泉って書いてありますけど、こんな温泉って全国でも本当に珍しいです。行かれたら分かりますが、ラムネの中に浸かっているようなものですが、色んな意味で自然に恵まれたリソースがあると思います。こういうのも、色んなご提言がいただければいいのかなと思います。

この件に関して、よろしいですか。

それでは、今後も委員の皆様方から総合計画策定で様々なご提案をお受けしたいと思っておりますので、こういう形でまず紹介していただいても結構ですし、例を出していただいても結構です。委員による資料ですとか、意見書などを通じて事務局のほうに提出いただいても構いませんのでご意見を出していただいて、多様な意見があるかと思っておりますので。

このような形で、今までの施策ごとに整理と現状と、今後の課題というような内

	<p>容で事務局のほうから検査していただいてその点について色々ご意見をいただき、それを元に最終的な答申、10か年計画を作っていくというような進め方をできればと思います。ただ、あとでよく読んでみると、こんなことに気がつかなかったということもあろうかと思いますが、そういうことも含めて、ぜひ提案をいただければと思います。</p> <p>【事務局】</p> <p>次回の日程ですが、次回第3回については、11月10日木曜日、10時からということで、場所は同じく防長苑2階で宜しく申し上げます。</p>
<p>会議資料</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 次第 ・ 資料1 「山口市のまちづくりの状況 NO.20～NO.22」 ・ 資料2 「施策別の振り返りと検討の方向性」 <ul style="list-style-type: none"> 【検討のポイント・概要版 (A4)】 【詳細版 (A3)】 ・ 資料3 「地域を活かすスポーツ起点のまちづくり」 ・ 資料4 「健康都市やまぐちの新たな展開」 ・ 資料5 「委員名簿」 ・ 資料6 「配席図」 ・ 資料7 「意見書」
<p>問い合わせ先</p>	<p>総合政策部 企画経営課</p> <p>TEL 083-934-2747</p>